

## 在宅医療・介護多職種連携会議

鹿児島市地域包括支援センター 谷山北

【計画】

作成担当者： 平田 大介

開催日時	平成30年10月25日 19:00 ~ 20:40	開催場所	鹿児島市谷山サザンホール
参加者	居宅介護支援事業所：40人、訪問看護ステーション：10人、医療ソーシャルワーカー：6人、医師：5人、薬剤師：20人、その他：8人、地域包括支援センター職員：28人、その他：1人		
	総数	118人	
内容	テーマ	「入退院時における多職種連携の在り方」	
	目的	入退院時の多職種連携について、南部地域での円滑な連携を推進する。	
	概要	南部ブロックが開催した前年度の多職種連携会議における、参加者からのアンケートを踏まえて、今年度のテーマを「入退院時における多職種連携の在り方」として、(1)同職種によるグループワーク(2)多職種によるグループワークを実施。グループワーク(1)では、①入退院時における多職種との上手くいった事例②上手くいかなかった(連携の上で困った事例)について、参加者より報告いただき、続くグループワーク(2)では、先ほどのグループワーク(1)にて同職種より出された意見を持ち寄り、多職種間で報告いただいた。最後に、参加より(代表して医師と医療機関のSW2名)本日の感想をいただき、全体での共有を図った。	

【結果】

開催日時	平成30年10月25日 19:00 ~ 20:40	開催場所	鹿児島市谷山サザンホール
参加者	居宅介護支援事業所：40人、訪問看護ステーション：10人、医療ソーシャルワーカー：6人、医師：5人、薬剤師：20人、その他：8人、地域包括支援センター職員：28人、その他：1人		
	総数	118人	
内容	同職種間でのグループワーク(1)では、参加者からの上手くいった事例、または上手くいかなかった事例をそれぞれの経験から報告していただいたが、それらの個別事例を通じて、「なぜ、そのようなことが起こるのか？」を考え、共通している事項を検討。その結果、連携における職種の特性を確認することができた。また反面、同職種間でも、他の職種との連携に対して日頃からの工夫や大切にしている思いなどを知ることで、同職種同士でも参考になる意見交換ができたのではと考える。続くグループワーク(2)では多職種グループを編成し、参加者自身の経験事例ではなく、職種の特性を踏まえた(1)のまとめを各職種より報告いただいた。ここでは、共通している事項として「どの職種も、利用者(患者)とその家族を中心に考えている。」事が確認された。これは当然のことかも知れないが、今回のグループワークでは、退院時、退院後の支援方針を決定する合意形成の場面などで、「カンファレンスに招集されなかった」「決定の前に相談して欲しかった」など、『上手くいかなかった事例』としても報告いただいている。しかし、その後の意見交換にて「この部分は職種に関係なく、一人一人が意識することで十分に改善は可能」との認識を共有することができた。南部地域における医療・介護の多職種連携のさらなる推進を図る上で、本会議がそのきっかけのひとつになったものとする。		
今後の課題など			